

# 資 料

## 新 着 資 料 の 紹 介

### 資 料 室

1) ソ連科学アカデミー絶対年代決定委員会編(1974):「Новые данные абсолютной геохронологии (絶対地質年代測定の新資料)」,ナウカ出版所,モスクワ,404 p.,27×18 cm(露文),UDC:550-9

#### 目 次

- Г. Д. Афанасьев ほか 2 : 絶対地質年代値の誤りに対する各種地質作用の影響 図 6, 参 7, p. 3-11  
С. Б. Брандт, Л. Н. Овчинников : 同位体地質学の諸問題 図 2, 参 14, p. 12-17  
Л. Н. Овчинников, С. Н. Вороновский : 鉱床の絶対地質年代測定について 表 8, 参 5, p. 18-27  
Г. А. Мурина ほか 5 : 同位体法による多変成コンプレックスの広域変成段階と超変成  
段階の絶対地質年代測定 図 2, 表 3, 参 6, p. 28-33  
Н. П. Семенов : ウクライナと同隣接地域の変成基盤の絶対地質年代学的構造図 図 1, p. 34-37  
Н. П. Семенов : 絶対地質年代学と先カンブリア紀問題 図 1, p. 38-46  
Н. П. Семенов ほか 11 : クリポイ=ログークレメンチュク構造帯およびバザブルク  
構造帯の堆積-火山源岩と花崗岩類との関係についての新資料 図 1, 表 4, 参 30, p. 47-67  
Л. Г. Бернадская, Ф. И. Котловская : ウクライナの先カンブリア紀後期トラップ岩  
系岩石の絶対地質年代 図 2, 表 1, 参 2, p. 68-75  
Г. Д. Елисева ほか 4 : ウクライナ地方産ジルコン絶対地質年代の不一致 図 4, 表 1, p. 76-79  
И. С. Романов ほか 2 : ドニエプル=ドネツ凹地北東縁帯ポルタワ系岩石の一次供給  
源の推定地質年代について 表 1, 参 5, p. 80-82  
Н. П. Щербак ほか 3 : ウクライナ楯状地西部最古の先カンブリア紀生成体と花崗岩類  
の絶対年代対比 図 3, 表 3, 参 3, p. 83-90  
Н. П. Щербак ほか 2 : ウクライナ楯状地西部先カンブリア系の時代区分の地質学のお  
よび同位体地質学的規準 表 5, 参 2, p. 91-95  
Н. А. Савченко ほか 6 : プリーピャチ=ライズとトリボフ凹地の変成基盤岩石の絶対地  
質年代 図 1, 表 1, 参 9, p. 96-100  
Н. П. Семенов ほか 3 : 加水雲母質岩と同質鉱物による堆積層の後堆積変質作用時  
間の決定 図 3, 表 7, 参 8, p. 101-109  
Л. Н. Овчинников ほか 3 : ボロネーシュ結晶岩山塊の変成生成体と貫入生成体の絶対  
地質年代 表 5, p. 110-115  
Г. В. Войткевич ほか 2 : ボロネーシュ結晶岩山塊南東斜面の先カンブリア紀生成体の  
絶対地質年代 図 1, p. 116-117  
Г. В. Войткевич ほか 2 : アゾフ隆起部先カンブリア紀生成体の絶対年代問題 p. 118-119  
А. И. Тугаринов ほか 3 : 白海層系の絶対地質年代学的研究について 図 3, 表 2, 参 9, p. 120-124  
К. О. Кратц ほか 2 : パルチック楯状地の地質時代境界と地質学的進化 図 4, 参 20, p. 125-130  
С. Б. Лобач-Жученко ほか 2 : パルチック楯状地先カンブリア系の K-Ar 絶対年代  
図 3, 表 3, 参 5, p. 131-136  
Т. В. Кольцова, Л. П. Никитина : コラ半島白粒岩の斑状変晶と石基の輝石にお  
ける  $Ar^{40}/K^{40}$  比の比較研究 図 3, 表 3, 参 14, p. 137-143  
Э. К. Герлинг ほか 4 : モンチェ=チュナ=ボルチエ ツンドラの塩基性岩中の変成現  
象と K-Ar 比 図 2, 表 4, 参 11, p. 144-159

- Д. А. Михайлов, О. А. Левченко: 先カンブリア系地域の Mg-Ca 鉱石交代岩の絶対地質年代学的研究 表2, 参33, p. 160-171
- Д. В. Постников: ロシア卓状地東部基盤岩の時代関係と変成条件 図1, 参22, p. 172-176
- М. А. Гаррис ほか2: 交代変質岩の K-Ar 絶対地質年代値の特徴 表3, 参23, p. 177-184
- А. А. Абдулин ほか3: K-Ar 法データによるムゴジャール花崗岩類岩系と変成岩の絶対地質年代 図1, 表1, 参15, p. 185-196
- А. Я. Крылов, М. Г. Равич: 南極大陸の絶対地質年代学的研究 図1, 表1, 参24, p. 197-202
- Н. И. Ненашев: 花崗岩類山塊の形成条件と形成時間の解明のための K-Ar 絶対地質年代測定 図3, 表5, 参25, p. 203-216
- Н. П. Заболотная ほか3: シベリア地方某螢石-フェナサイト-ベルトラングダイト鉱床の堆積岩・貫入岩・交代岩の絶対地質年代 表2, 参5, p. 217-222
- Г. П. Багдасарян: アルプス輪廻構造運動—マグマ活動の絶対地質年代 表6, 参62, p. 223-239
- Г. П. Багдасарян ほか2: 絶対年代規準の資料 表1, 参6, p. 240-244
- М. М. Рубинштейн ほか6: 鉱体側岩交代岩によるグルジア地方熱水鉱床の Ar 絶対年代測定の総括 図2, 表1, 参4, p. 245-249
- М. М. Рубинштейн ほか4: 地質・同位体・古磁気のデータによるザカフカス地方新第三系上部および第四系噴出岩の時代決定 p. 250
- М. М. Рубинштейн, Л. К. Габуния: 新生代絶対地質年代の諸問題 p. 250
- Р. Н. Абдуллаев ほか2: 小カフカス地方酸性白亜紀火山岩の同位体絶対年代 表1, 参7, p. 251-255
- А. И. Степанов ほか3: マグнитゴルスク複向斜の半深成岩・サブボルカニック岩・岩脈岩の絶対地質年代 図4, 表4, 参6, p. 256-262
- А. А. Богданов ほか8: 中部カザフ地方デボン紀周火山岩帯東西性分岐帯花崗岩類の同位体地質年代の初データ 表1, 参8, p. 263-266
- Ю. А. Зайцев ほか6: 中部カザフ地方先カンブリア系の絶対地質年代について 図1, 表3, 参16, p. 267-274
- Н. Я. Яшенко, А. А. Ляпичева: 絶対地質年代測定データと地質学的研究データによる中部カザフ地方バヤナウル地区花崗岩類コンプレックスの生成期 図1, 表2, 参11, p. 275-287
- Э. И. Иванова ほか2: 中部カザフ地方バイナザル構造体花崗岩類の場合における黒雲母の絶対年代解釈の問題によせて 図3, 表3, 参16, p. 288-297
- Р. Н. Соболев ほか2: サルイステニス分水嶺の花崗岩類の絶対年代新資料 表1, 参10, p. 298-304
- О. П. Елисеева, О. В. Кузьмина: 中部カザフ地方の花崗岩類を例とした岩石の地質学的関係と絶対年代値との不一致の原因について 図3, 表3, 参2, p. 305-316
- В. А. Кутенец ほか3: 東カラテギン地域と南西アルタイ地域のヘルシニア貫入コンプレックスの地質学的—同位体地質学的区分 表2, 参22, p. 317-329
- А. К. Мельниченко, В. Д. Дусматов: 絶対地質年代測定値によるギサル=アルタイ地方アルカリ岩の生成期 図2, 表3, 参29, p. 330-341
- Е. М. Головин, Л. А. Юрьев: パミール=天山地方古生代構造運動—マグマ活動の絶対年代と進化規則性 図1, 表2, 参26, p. 342-352
- Э. М. Анимова ほか2: 北バイカル火山岩帯の噴出岩と花崗岩類の同位体分析データ 表2, 参8, p. 353-366
- А. Я. Крылов: 海底岩石の絶対地質年代測定の問題 図6, 表2, 参45, p. 367-379
- Э. В. Собонович ほか4: 地中海海水の炭素同位体による絶対年代 図2, 表1, 参5, p. 380-383
- В. В. Чердынцев ほか2: 太平洋の新期火山岩と鉄マンガン団塊の絶対地質年代 表1, 参19, p. 384-391

2) ソ連科学アカデミー・バシキール支部地質研究所 (1973) : 「Колчеданные Месторождения Баймакского рудного района (パイマク鉱産域の硫化鉄鉱床)」, ナウカ出版社, モスクワ, 224 p., 図43, 表1, 参 109, 21×14 cm (露文), UDC: 553.411:435.552.313

目次

パイマク鉱産域の地質の特徴

層序

パイマク鉱産域の噴出岩と火砕岩の岩石学的特徴 サブボルカニック生成体と半深成貫入生成体変成作用の特徴 地質構造

母岩の相帰属性と地質発達史の特徴

メタロジェニーの特徴

鉱床田と鉱床の地質構造上の位置

東パイマク亜帯

ツバー鉱床群 クリュルト=タウ鉱床群 タナルイク=パイマク鉱床 セメノボ=ユララ鉱

床田の鉱床 東セメノボ鉱床と新セメノボ鉱床 トッバカイン鉱床 バルタ=タウ鉱床

中部パイマク構造フォーメーション亜帯と西パイマク構造フォーメーション亜帯

バクル=タウ鉱床 タシユ=タウ=アバイサス鉱床田 マイスク鉱床 パイカラ鉱床田

鉱石の鉱物組成とタイプ, その構造と組織

母岩の変質

パイマク鉱産域硫化鉄鉱床の地質学的生成条件と分布規則性

鉱床の予測

まとめ

付表 (岩石化学組成表)

3) Б. М. Мицюк (1974) : 「Взаимодействие кремнезема с водой в гидротермальных условиях (熱水条件下での珪酸と水の相互反応)」, 「Наукоба Думка」出版社, キエフ, 88 p., 図26, 表2, 参 309, 22×15 cm (露文), UDC: 541.6 + 550.41

目次

第1章 珪酸と水の化学反応の性質

- § 1. 珪素原子の電子構成の特徴
- § 2. 珪酸結合の電荷移動性
- § 3. 水溶液中での珪酸の重合機構
- § 4. ポリ珪酸ゲルの構造と物理化学的性質
- § 5. 珪酸表面における水吸着の性質
- § 6. 珪酸表面に接する水の構造と性質
- § 7. 水および水溶液中の珪酸溶解機構

第2章 常温および高温時における水溶液中での珪酸の移動

- § 8. 水中での各種形態の珪酸の溶解度
- § 9. 水中での珪酸溶解の運動力学
- § 10. 水溶液中での珪酸の状態
- § 11. 自然条件下での水溶液からの珪酸の抽出
- § 12. 非晶質蛋白石状珪酸の構造の形成
- § 13. 熱水条件下での非晶質珪酸の結晶作用

第3章 高温・高圧時における水および水蒸気と珪酸の相互反応

- § 14. 水中での珪酸溶解度に対する温度と圧力の影響
- § 15. 過臨界水中での珪酸の移動の特徴

§16. 熔融領域での  $\text{SiO}_2\text{-H}_2\text{O}$  系の相平衡の性質

§17. 珪酸地球化学分野での流体溶液の意義

まとめ

4) **З. А. Крутиховская (1971)**: 「Глубинное строение и прогнозная оценка украинской железорудной провинции (ウクライナ鉄鉱床生成区の深部構造と予測評価)」, ナウコバ ドゥムカ出版所, キエフ, 207 p., 図90, 表1, 参 288, 27×18 cm (露文), UDC: 551.24 (477): 550.83 + 553.3.042

目次

第1章	地質—地球物理学的研究の概要
第2章	ウクライナ楯状地とロシア卓状地南部の構造におけるウクライナ鉄鉱床生成区の位置
第3章	先カンブリア系地質構造研究への地球物理学的数据利用の原則 地球物理学的数据による先カンブリア系の褶曲構造と断裂構造の研究法
第4章	地球物理学的数据による鉄鉱床の予測評価法 含鉄珪岩図幅の作製と鉄鉱床の構造の研究 地球物理学的数据による鉄鉱組成の近似的評価 クリボイ=ログ型高品位鉄鉱の探査法 向斜構造下限の判定
第5章	先カンブリア系基盤面の起伏
第6章	褶曲構造 クリボイ=ログ=クレメンチュク構造相帯 ベルホフツェボーチェルトムリク構造相帯 ス稀スクートマコフカ構造相帯 コンカ=ペロジョルスコエ構造相帯 オレホフ=パプログラト構造相帯と西沿アゾフ海地域
第7章	断裂構造 深在断層 広域断層と高割れ目帯
第8章	地殻の構造 深部地震探査データによるウクライナ楯状地東部の地殻の構造 重力場による地殻構造の研究法 モホロビッチ面の起伏様式および地殻深部構造と表部構造との関係

むすび

5) **全ソ地質研究所報告(1972)**: 「Формационный анализ и его роль в выявлении закономерностей размещения месторождений полезных ископаемых (フォーメーション解析とその鉄床分布規則性解明への役割)」, レニングラード, 176巻, 新シリーズ, 27×18 cm (露文)

目次

Е. Т. Шаталов	: 開会の辞	p. 5-7
В. Н. Москалева, Д. С. Харкевич	: マグマ=フォーメーション分類の問題	表1, 参14, p. 7-26
Д. Э. Алексеева	ほか3: 堆積フォーメーション, 火山源フォーメーション, 火山源— 堆積フォーメーションの分類原則	表2, 参37, p. 27-37
В. И. Драгунов	ほか3: 地体構造区分と鉱物生成区区分の基礎としてのフォーメイ ション解析	図3, 表4, 参94, p. 38-61
З. В. Сидоренко	ほか2: 水銀・アンチモン鉄床生成・予測図組立法	図5, 参22, p. 62-76
В. С. Кормилцын	ほか4: 太平洋可動帯北部の鉛・亜鉛メタロジェニーの特徴	図2, 参17, p. 77-87

- Ю. В. Богданов ほか 2 : 成層銅鉛床予測の原理 p. 88-91
- И. В. Ляхницкая, Р. И. Шурупова : コラ半島塩基性・超塩基性貫入岩発達帯中の銅-ニッケル硫化物鉛床予測の原理 図 1, p. 92-101
- С. В. Москалева : クロム鉄鉛床予測でのフォーメーション解析の役割 図 2, 表 3, 参 69, p. 102-119
- Н. С. Мудрогина ほか 2 : アンチモン-水銀鉛床の生成タイプとその予測法 (中央アジアとカフカスの場合) p. 120-127
- Ж. Д. Никольская : 花崗岩類貫入体発達帯における稀少金属鉛床予測の原理 図 6, 表 2, 参 34, p. 128-142
- М. Л. Лурье ほか 2 : シベリア卓状地古生代後期-中生代前期トラップ層系の含鉛体コンプレックス 図 3, 参 38, p. 143-158
- К. И. Дворцова : 古火山区でのフォーメーションと相による研究法について 図 10, 参 19, p. 159-179
- В. В. Лаврав : 夾炭層系のタイプとその有用鉛物の共生コンプレックス 表 1, p. 180-189
- Г. А. Иванов : 夾炭層系の構造と組成の累帯性 図 2, p. 190-196
- М. И. Ритенберг : ドネツ夾炭層系の構造の周期性 図 2, 参 17, p. 197-211
- С. И. Романовский : フォーメーション解析による理論的層厚分析基礎としての確率的層堆積過程モデル 図 2, 表 2, 参 7, p. 212-220
- Ю. В. Казизын ほか 4 : 可動帯発達後期段階貫入体の岩石学的研究での鉛物-地球化学的研究法 図 1, 表 1, 参 33, p. 221-233
- Г. А. Мурина, А. Д. Искандерова : 堆積岩と変成岩の年代決定への同位体法の利用 図 6, 表 2, p. 234-243
- А. Н. Гарновская : 稀土類測定法の現状と分析の可能性 表 2, 参 12, p. 244-248
- Г. Н. Бурэ ほか 2 : 鉛物の比重研究用 TGP-1 型新熱勾配測定機 図 2, 参 5, p. 249-255
- А. В. Македонов : 夾炭層系とその堆積フォーメーション分類での位置 図 2, p. 256-259

6) Э. Б. Чекалюк, И. М. Федорцов, В. Г. Осадчий (1974) : 「Полевая геотермическая сэмка (野外地熱勾化)」, ナウコバ ドゥムカ出版所, キエフ, 103 p., 図 28, 表 4, 参 47, 22×15 cm (露文)

## 目 次

- 第 1 章 地熱研究の概況  
 油田・ガス田区における深部地熱観測  
 地表温度条件の野外研究
- 第 2 章 地球の熱条件  
 熱 源  
 地下の温度  
 気圏と水圏の温度  
 地表の熱条件  
 地球の成長における熱の役割
- 第 3 章 地球の熱場の地質学的情報  
 概 説  
 気候の歴史  
 構造運動  
 地質断面の不均一性  
 外熱過程
- 第 4 章 地表における温度場の情報

概説

- 周期的温度妨害条件の除去法
- 非周期的温度妨害条件の除去法
- 恒常妨害要素
- 温度図の解釈

第5章 地熱図化法

第6章 野外地熱図化作業の組織化

- 野外作業の準備
- 野外作業計画の立案
- 測定器と測度測定技術

第7章 ウクライナ共和国油田・ガス田区における地熱研究成果

- 平原クリミア地方での実験作業の結果
- 前カルパチア凹地とボルィン=ポドリスク楕状地での実験作業
- まとめ

7) И. В. Круть (1973): 「Исследование оснований теоретической геологии (理論地質学の基礎の研究)」, ナウカ出版所, モスクワ, 204 p., 表12, 参 127, 21×14 cm (露文)

目次

第1章 理論地質学の進化

地質学史研究について

地質学前史 (第1期—第4期)

地球に関する原始的認識 初期地質科学の発生 科学革新と地質学的知識

地質学の形成 (第5期)

N. ステノンの原理 科学的世界観の誕生 18世紀の地球科学 D. ハットンの理論

古典的地質学の発展 (第6期)

19世紀の科学の進歩 進化論的地質学の誕生と層位学の形成 ch. ライエル概念 地質構成物質に関する科学の発生 進化論的地質学と構造地質学の発展 19世紀の理論地質学に関するまとめ

20世紀の理論地質学の状態によせて (第7期)

第2次科学革新と地球科学 地質学の伝統的分野と新しい分野 惑星地質学 まとめ

第2章 地球科学に関する V. I. ベルナツキーの概念の発展によせて

自然科学的認識の基礎について

昔からの概念

自然物体 構成水準 空間の状態について

地質空間

系としての自然客体 地質客体の空間 共存関係について

地球惑星時間の要素と成分について

自然時間の問題 自然時間の要素と種類について 地球惑星時間の成分について

自然地質物体

鉱物のレベル 岩石のレベル 高次地質レベル 地体構造系 地質構成に関する考察

第3章 地質生成体 (geological formation)

地質生成体研究の現状によせて

「地質生成体」の定義について 結晶岩生成体 フォーメイションとファシース フォーメイションと層序区分

自然系としての地質生成体

	フォーメーション学の新方向	所属性の問題	フォーメーション分類の原則	フォーメーションの主要区分
第4章	岩圏の広域-段階区分			
	地体構造系			
	地体構造構成	単位構造コンプレックス	地向斜構造コンプレックスと卓状地構造コンプレックス	大陸と海洋
	層序構成成分としてのジオシステム, エコシステム, バイオシステム			
	バイオゲオツェノチック=システムについて		局地性・広域性ストラト=コンプレックス	
	広域性・惑星規模ストラト=コンプレックス			
第5章	地殻の自然分類の根拠によせて			
	地球の物理的構成			
	geomassergosphere とその構成についての概念		geogravisphere と geoelectromagnitosphere	
	geomassasphere		geoquazisphere	
	地球の化学的構成と地質学的構成			
	地球物理的マントルと地質学的マントル	化学的地圏	地質学的マントルについて	地球-宇宙の問題によせて
第6章	ジオシステム研究の力学的および歴史的見地			
	まとめ			

8) 先カンブリア系地質・地質年代研究所 (1974): 「Геохимия радцоленных и радцоактивных изотопов (崩壊成同位体と放射性同位体の地球化学的研究)」, ナウカ出版所レニングラード支所, 256 p., 22×15 cm (露文)

目次

Ю. А. Шуколюков	ほか3: ネオン同位体の地球化学的研究	図12, 表10, 参65, p. 5-45
И. М. Морозова	ほか2: 造岩鉱物の質量分析・熱解析	図16, 表1, 参14, p. 46-67
Л. К. Левский, А. Н. Комаров:	シホテ=アリン隕石トロイライト質・シュレイベル	
	ジャイト質包有物中のヘリウム, ネオン, アルゴンの同位体	図2, 表2, 参20, p. 67-79
И. Н. Толстихин	ほか3: 結晶石英中のヘリウム分散係数の評価	図2, 参6, p. 79-90
И. Н. Толстихин	ほか3: カムチャツカ半島火山岩産超塩基性捕獲岩中のヘリウム	
	同位体組成	表3, 参29, p. 90-104
И. М. Морозова	ほか2: 天然アルモ珪酸塩中のリチウム・カリウム同位体の拡散	
		図8, 表11, 参13, p. 105-130
А. Н. Комаров:	ラジウム挙動指標としての放射性重晶石	図2, 表2, 参7, p. 131-138
С. З. Яковлев, Е. В. Шарков:	コラ半島モンチェツンドラの古期岩石中のカリウム	
	とルビジウム	図8, 表5, 参47, p. 139-162
С. З. Яковлева:	各種構造地質区産塩基性岩中の K/Rb 比の変化	図3, 表3, 参19, p. 163-176
Э. С. Варшавская, И. М. Горохов:	玄武岩質マグマの抛出・進化過程における Sr <sup>87</sup> /Sr <sup>86</sup>	
	比の変化	図5, 表4, 参29, p. 176-192
И. Н. Крылов, С. Б. Лобач-Жученко:	広域変成過程・超変成過程でのルビジウム	
	とストロンチウムの挙動について	表8, 参16, p. 192-207
И. Н. Крылов:	岩石中のルビジウムとストロンチウム測定へのX線スペクトル法の利用	
		図2, 表3, 参5, p. 207-214
С. З. Яковлева, Г. А. Шейнина:	塩基性岩・超塩基性岩中の微量ルビジウム測定への	
	焰色撮映法の利用	図4, 表3, 参14, p. 214-221
С. П. Самсонов:	固相イオン源での質量分析計中の質量の識別	図1, 参10, p. 221-227

C. П. Самсонов ほか2 : ルビジウム・ストロンチウム精密同位体分析用 MI-1305 型  
質量分析器の近代化 図9, 参10, p. 228-240

C. П. Самсонов ほか2 : 標準塩のルビジウム・ストロンチウム同位体組成  
図2, 表2, 参10, p. 240-249

9) Г. И. Туговик (1974) : 「Эксплозии и рудный процесс (爆裂作用と鉱床生成過程)」, ネー  
ドラ出版所, モスクワ, 207 p., 図53, 表7, 参 318, 22×15 cm (露文)

目 次

第1部 含鉱爆裂生成体の特徴

1. 酸性(と中性) マグマと関係ある含鉱爆裂生成体  
サフールト金鉱床の爆裂生成体 ブルクタイ稀少金属鉱床の爆裂生成体
2. 塩基性・超塩基性・アルカリ各マグマと関係ある含鉱爆裂生成体  
塩基性マグマと関係ある爆裂生成体 アルカリ-塩基性マグマと関係ある爆裂生成体 超  
塩基性マグマと関係ある爆裂生成体 超塩基性-アルカリマグマと関係ある爆裂生成体
3. 充填岩の性質による含鉱爆裂生成体の分類  
第1型 側岩モノミクト角礫からなる生成体  
第2型 非側岩モノミクト角礫からなる生成体  
第3型 凝灰質物質を伴う角礫からなる生成体  
第4型 貫入岩ないし分解岩脈で膠結された非側岩角礫からなる生成体  
第5型 角礫レリクトを伴った貫入岩の岩株・岩頭に充填されている生成体
4. 含鉱爆裂生成体の形態的特徴

第2部 含鉱爆裂生成体の生成条件

5. 鉱石生成-爆裂過程の特徴
6. 含鉱爆裂生成体中の崩壊現象
7. 実践上の提案と今後の研究課題

まとめ

10) У. Асналиев (1974) : 「Литология и рудоносность девонских и нижнекаменноугольных отложений Срединного тянь-шаня (天山山脈中央部デボン系・下部石炭系の堆積相と鉱床胚胎性)」, イリム出版所, フルンゼ, 236 p., 図29, 表16, 参 110, 22×15 cm (露文)

目 次

第1章 天山山脈中央部のデボン系と下部石炭系の構成

デボン系中部および上部 石炭系下部 デボン系と下部石炭系の地質断面タイプ

第2章 デボン系と下部石炭系の岩石のタイプ

砕屑岩 炭酸塩岩 硫酸塩岩 陸源-炭酸塩岩

第3章 デボン系と下部石炭系の周期性

第4章 デボン紀と石炭紀前期のフォーメーション

第5章 デボン紀と石炭紀前期における天山山脈中央部の相-古地理の特徴

第6章 堆積フォーメーションの後堆積変質

第7章 デボン系と下部石炭系中の鉛・亜鉛の分布

ナリオン亜帯 チュルマー亜帯 チャートカル亜帯 カラターウ亜帯

まとめ